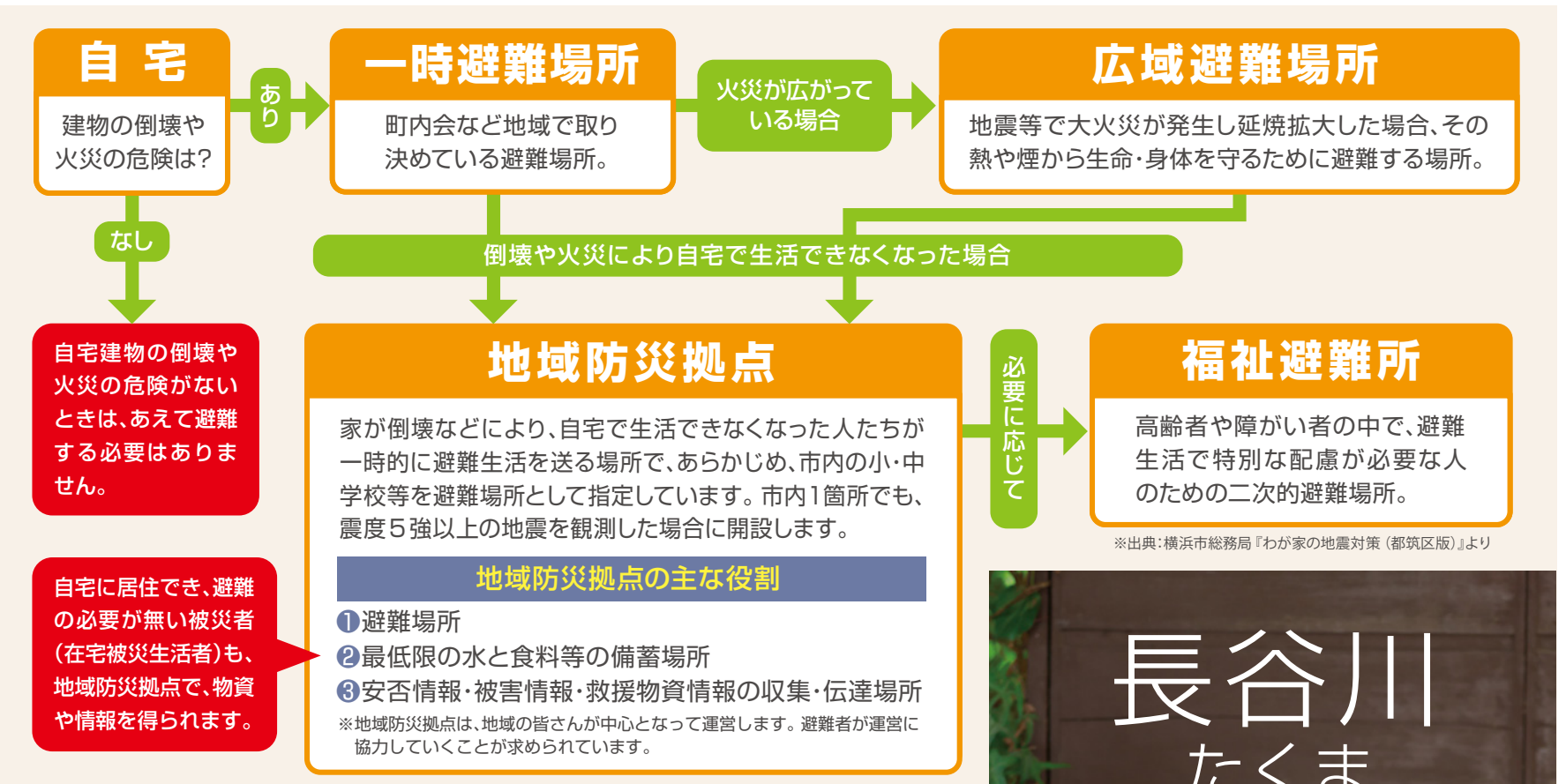


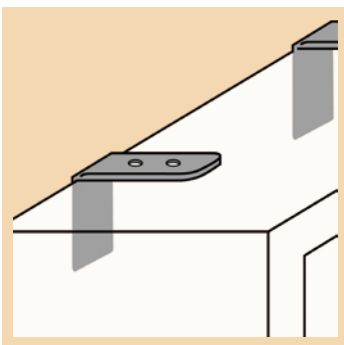
防災から減災へ～避難場所を知っていますか?～

天災は忘れた頃にやってくる。この警句をご存知でしょうか? 物理学者であり防災学者でもあった寺田寅彦先生が広めた言葉だそうです。災害は防ぐことができません。私たちができることは、被害を最小限に食い止めること、日々の備えをすることです。防災から減災へと気持ちを切り替え、まず自分ができることに取り組みましょう。いざという時に慌てずに避難するため、お住まいの自治体の防災マップやハザードマップを入手し、避難場所・避難経路を事前に確認しておきましょう。



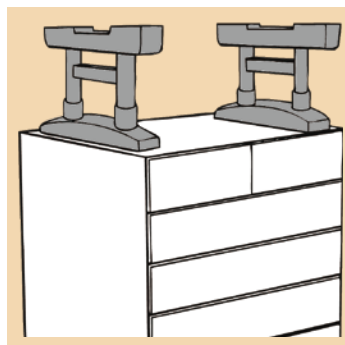
自宅の安全対策(転倒・落下・移動防止)

阪神淡路大震災や新潟中越地震などは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになり、被害が拡大しました。大地震が発生した際は、大きな揺れで家具が倒れ、重たいものが自分に向かって飛んでくる可能性があります。自宅の安全対策を施しましょう。



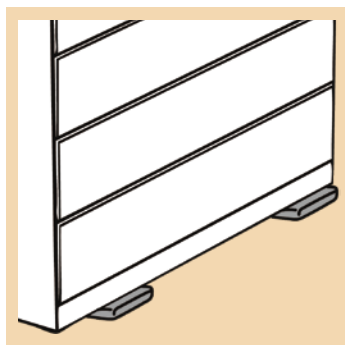
L型金具
(下向き取り付け)

家具と壁を木ネジ、ボルトで固定。スライド式、上向き、下向き取り付け式があり、下向き取り付けが最も強度が高い。



ポール式器具
(突っ張り棒)

ネジ止めすることなく、家具と天井の隙間に設置する。粘着マットやストッパーとの組み合わせで強度が高くなる。



粘着シート
(マット式)

粘着性のゲル状で、家具の底面と床面を接着させる。

※出典:東京都総務局『東京防災』より

都筑区は横浜市内で平均年齢が最も若く、現在都市開発が進行中の元気な区です。価値観や生活様式が多様化するなか、「都筑区に住んで良かった」と思える地域を作り上げるため、しっかりと皆さんの声を市政に届けてまいります。

横浜市議員 **長谷川たくま**

長谷川
たくま

www.hasegawatakuma.yokohama

「力強くたくましく」
自民党 横浜市議員

- 昭和54年生まれ
横浜市都筑区東方町在住
- 都田幼稚園 ●都田小学校
- 明治大学付属中野八王子中学高等学校
- 米・ネバダ州立大学 / 政治・国際関係学部
同大学院 政治学部比較政治学科 卒業
- 2015年4月横浜市会選挙 都筑区より初当選

事前対策

災害時は携帯電話など、通信機器の回線がつながりにくくなります。事前に安否確認の手段や集合場所などを、家族で話し合っておきましょう。特に連絡先の情報は、緊急時にすぐに取り出せる状態におきましょう。

事前に家族で確認しておくこと

- 家族の情報(勤務先等)
- 家族の避難場所
- 親戚の情報
- 家族の安否確認の手段(連絡先等)
- かかりつけ医の情報



備蓄品リスト

- 食料品
- 飲料水
(1人1日3リットルを最低3日分)
- トイレ(凝固剤)
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 現金(小銭を含む)
- 通帳、保険証、免許証
- 紙皿
- 紙コップ
- 救急箱
- 常備薬
- 生理用品
- ビニール袋
- タオル
- 軍手
- 使い捨てカイロ

意外と忘れがちな備蓄品

- ポリタンク(飲料水を入れる用)
- 台車
- サランラップ
- ウェットティッシュ
- 紙おむつ(幼児用・高齢者用など)
- 赤ちゃんのミルク
- 離乳食
- おもちゃ
- 母子手帳
- 入れ歯
- メガネ
- アレルギー対応食品
- 杖
- 車いす

災害時給水マップ

※出典:横浜市水道局「災害時給水マップ(都筑区版)」より

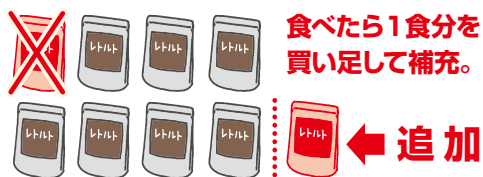


食料備蓄マメ知識

月に1度か2度、備蓄品を食べる日をつくりましょう。無理のない備蓄対策が可能となるはずですよ。

ローリング・ストック法

缶詰やレトルト食品などの備蓄した食品を製造日の古いものから定期的に消費し、食べた分だけ買い足していく方法。



給水マメ知識

給水場所での容器の配布は期待できません。ポリタンク等の容器と、水を入れて重くなった容器を運ぶ台車の準備があると便利です。



災害用地下給水タンク

発災後からおおむね3日間、地域の皆さんによって仮設の蛇口を取り付け、給水することができます。



緊急給水栓

発災後、おおむね4日目以降に、水道局職員が断水状況を踏まえ、順次、仮設の蛇口を取り付けます。



配水池

発災直後から、断水状況等をふまえ水道局職員によって給水を行なうほか、給水車への水の補給場所として活用します。



長谷川たくまはこう思う

横浜市議員(都筑区選出)

ひとたび災害が起きると、被害の大小にかかわらず私たちは多くのストレスにさらされると考えられます。「日頃の備え」は起きてほしくない天災に対するストレス軽減になるはずですよ。公的機関も防災減災に努めていますが「公助」の前に「自助・共助」を大切に、家族そして地域のつながりを大切にしていけることが求められていると感じます。